

【鹿児島】指宿の整形外科病院が東京・麻布十番に分院を出した理由-今林恵美・医療法人明正会理事に聞く◆Vol.1

2021年11月26日（金）配信 m3.com地域版

薩摩半島南端の地で今林整形外科病院（110床）を運営する医療法人明正会（指宿市）は、2017年にその分院となる麻布十番今林クリニック（東京都港区）を開設した。東京進出は理事長の今林正典氏の悲願であったが、ビジネスとしてはどんな戦略があるのか。医療法人明正会理事の今林恵美氏に聞いた。（2021年10月22日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら



医療法人明正会理事・今林恵美氏

—まずは今林整形外科病院の特長について教えてください。

特長としては、1.医療と介護の連携、2.在宅復帰に向けた居宅介護支援事業、3.救急医療、4.脊椎外来などの専門的な医療、5.PRP治療などの新しい医療の5点が挙げられます。

一つ目として、まずは医療と介護の連携を重視していることが挙げられます。3000坪の敷地内に、今林整形外科病院、リハビリテーションに特化したクリニック（クリニックリハビリ菜の花）、介護老人保健施設（指宿温泉菜の花苑）を併設し、医療と介護のサービスを包括的に提供しています。入院していた方が退院後にクリニックで通所でのリハビリ治療を受けることもできますし、介護が必要な場合には老健に入ってくださいことも可能です。

二つ目は、在宅復帰に向けた居宅介護支援事業を展開していることです。介護老人保健施設内に居宅介護支援事業所を設置し、地域の皆さまに日常生活に戻っていただくための在宅のサポートを行っています。

三つ目は、救急医療に力を入れていることです。指宿南薩地区は救急搬送困難者が少ない地域として全国的にも知られているのですが、当院もその一端を担っています。

四つ目は、脊椎外来などの専門的な医療を提供していることです。慶應義塾大学病院、および鹿児島大学病院と密に連携し、当院も専門的な医療を提供することができます。慶應義塾大学病院からも複数の医師が非常勤で治療に当たっており、鹿児島大学病院からも複数の医師が当院で治療に当たっています。

五つ目は、PRP治療（関節治療）などの新しい医療を積極的に取り入れていることです。PRP治療は東京では既に数多くの病院で行われていますが、鹿児島ではまだ少数にとどまります。



今林整形外科病院



クリニックリハビリ菜の花



指宿温泉菜の花苑

——診療体制について教えてください。

常勤医師は、病院に6人、クリニックに1人、老健施設に1人の合計8人います。2021年12月から1人増えて9人になります。非常勤医師は、慶應義塾大学病院から5人、鹿児島市内から4人の合計9人です。職員数は麻布十番分院も含めて合計314人です。

慶應義塾大学病院からの5人の非常勤医師は、東京から日帰りで指宿の本院に来ていただいています。早朝便の飛行機に乗り、専属運転手が鹿児島空港に迎えに行き、鹿児島空港から1時間30分ほどの距離にある本院で診療を行い、東京に戻っていきます。

——2021年6月に創立45周年を迎えました。創業者である現理事長のお父さまは指宿の出身なのですか。

はい、創業者である会長（今林正明氏）は指宿の宮ヶ浜の出身です。会長が国立指宿病院（現：国立病院機構指宿医療センター）に勤務していた時、歩けなくなっていたある植木職人の息子さんが、会長の脊椎手術を受けることで歩けるようになりました。会長は鹿児島市内の病院にも勤務し、将来は鹿児島市内での開業を考えていたのですが、その患者さんをはじめ多くの方々に「ぜひ指宿で開業してほしい」と頼まれ、いくばくかの土地をいただき、指宿に戻って開業することになりました。

——2017年に東京の麻布十番に分院を開設しました。地方の整形外科病院が東京に進出するのは珍しいですね。

はい、少ないと思います。九州から見て東京が遠いのは確かですが、私は東京生まれの東京育ちで東京に精通しています。理事長も学生時代から、慶應義塾大学病院勤務に至る長期間、滞在していました。また、会長も東京に何度も足を運び、「東京に自らの帝国を築きたい」という強い思いを抱いていました。そこで、現理事長がお父さまの夢を叶えるべく、2017年に麻布十番今林クリニックを分院として開設しました。東京に詳しい私が分院の立ち上げを指揮したのですが、何も分からない状態から施設をつくり、職員を採用しました。現在、整形外科、皮膚科、美容皮膚科を展開しています。

東京に分院をつくったのは、超高齢社会におけるビジネス戦略の一環でもあります。指宿市は人口4万人を切っており、今後はさらに減っていきます。そこで、病院として指宿の地と東京の地で生き残っていくために、サテライトとなる分院を東京につくることにしました。

2025年に首都圏での病床不足が深刻化すると予想されています。東京の分院で診察した患者さんが、手術が必要になっても入院できなくなる可能性が考えられます。麻布十番今林クリニックでは、脊椎外科の権威である渡辺航太先生（慶應義塾大学医学部 整形外科学教室准教授）による診療も行っているのですが、先生の脊椎外来手術は常に長期間順番待ちの状況です。ただ、渡辺先生は今林整形外科病院の非常勤医師でもあります。従って、東京で手術を受けることができない場合、指宿に来て手術を受けていただくことも可能です。長期間痛みを我慢するか、それとも鹿児島に来て渡辺先生の手術を受けるか。東京の患者さんたちにとって、もう一つの選択肢となるのではないかと考えました。東京の患者さんで手術の適用になった方、長い治療が必要な方を鹿児島の本院で受け入れることを想定しています。

今林整形外科病院の同敷地内には温泉棟がありますので温泉療養も可能です。さらに2025年に向けて、温泉プールやタラソテラピーのための施設も計画中です。指宿は海が近く、気候は温暖です。いつも心地よい海風が吹いていますので、リラックスして過ごしていただけたらと思います。

——指宿薩南地区の地域医療の課題を教えてください。

一つ挙げるとすれば、専門医が不足していることだと思います。整形外科の専門医は当院にいますが、循環器系の疾患や呼吸器系の疾患になると当院では診ることができません。その場合、その分野の専門医がいる病院へ搬送するわけですが、指宿南薩地区の中核病院である指宿医療センターも含めて、以前よりかなり拡充はされてきていますが、そうした各科の専門医が依然不足している状況です。今は鹿児島市内の病院に搬送しなければならないケースも多いのですが、できれば指宿南薩地区の病院にそうした専門医がいてほしいと思っています。

◆今林 恵美（いまばやし・えみ）氏

玉川学園女子短期大学英文学科卒業後、森ビル株式会社の営業部、外資系銀行・証券会社における欧米人対象の日本語教師を経て、シンガポール航空・トルコ航空の外資系航空会社に在籍し、国際線客室乗務員として国際線に乗務。フライトの傍ら客室乗務員養成の教官として採用・教育指導に携わる。その後厚生労働省職業訓練認定校等を経営。2017年9月に麻布十番今林クリニックの経営に参画。2021年4月に医療法人明正会の理事に就任。著書に『幸せぐせを身につける7つのマインドマッスルトレーニング（幻冬舎ルネッサンス）』がある。

【取材・文＝堀 勝雄（写真は医療法人提供）】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

